巻頭特集

THE AUDITION

ザ・オーディション

飛騨センター 童話の森の探偵団
ミュージカルコンサート

原石を探して磨く

新しい文化として地域に根付いた
飛騨・世界生活文化センターの市民ミュージカル
今年のテーマは「原石を探して磨く」
今年はメンバー世代交代の年
限られたキャストを目指し、少女たちの心に火が灯る

今年も新型コロナとの戦い 3ヶ月遅れのスタート

今年で14年目を迎える飛騨・世界生活文化センターのオリジナルミュージカル。着々と進化を遂げているが、今回もコロナ禍に翻弄され、従来のような活動ができない状況に苦しんでいる。

ようやくキャンプの幕が開けたのは、いつもより3ヶ月遅れの10月10日。継続出演しているメンバー30名と新規メンバー5名が、今回初めて顔を合わせた。待ちかねたスタートに喜びと緊張が交差する。

「今回も万全のコロナ対策を施してスタートします。早速ですが、今日練習したことは、来週までにできるだけ仕上げてきてください。皆さんの中でキラリと光るものをみつけたいと思います。そこでグループ分けがあるかもしれません」同センターの統括、六角裕治さんの挨拶に、メンバーたちは身を引き締める。進行も急ピッチで展開されるようだ。

今年のテーマは「原石を探して磨く」。継続して出演しているメンバーの多くは、高校や大学進学などの節目で卒業するケースがほとんどで、今年は世代交代の年。次の世代を担うメンバーになるチャンスとなる。一人ひとりの持っている個性（例えば歌がうまい。音読がうまい）などを見つけるためのオーディションを開催することになった。

キャンプ初日のメニューは、課題ダンスの振り確認や基本の発声練習および課題楽曲の歌指導、台本の読み合わせなどが行われ、継続出演しているメンバーは徐々に勘を取り戻し、新規メンバーは雰囲気をつかんでいく。名古屋芸術大学（以後、名芸）非常勤講師 江端智哉講師による歌指導や、名芸ミュージカルコースOG 阿南有耶氏らによるダンス指導など本格的なレッスンが進められた。

練習の最後にはメンバーの保護者たちが、ダンスのデモンストレーションをムービーで撮影。短期間で高いクオリティーに達するためには、自宅での練習も必須だ。

オーディション当日 審査員が見抜く原石の輝き

いよいよオーディションの日がやってきた。メンバーは2組に分かれてダンスと歌を30分ずつ練習し、調整終了。オーディションを行うステージの前には、審査員席が設けられた。

メンバーたちを必要以上に緊張させないためか、ごく自然な流れでオーディションが開始された。審査するのは芝居と歌。いずれも5人1組で、芝居はワンシーンのセリフを5人で振り分けて演じ、歌はひとりワンフレーズずつを順番に歌っていく。

審査は年長者のグループから順に始まった。舞台慣れしているメンバーでも、審査員の目が集中する中では声が震えることもある。普段の練習も審査に加味されるが、大勢の観客の前に立つ本番のためにも、どこまでやりきれるかメンタルも試されるのだ。次第に場が落ち着いてくると、感情のこもったセリフや身振りなど、熱演が繰り広げられた。低学年で緊張のあまり声が上手くでない子や音のとれない子もいるが、これからのキャンプでどれだけ成長するのか、その才能を見抜くのも審査員の醍醐味だ。

オーディションではどういったところを評価するのか、初回から指導してきた六角統括は「歌えて、踊れて、芝居ができる〝これが、ミュージカルに対する名芸の森泉先生の教えです。ですから、この3要素がオーディション評価の基礎となっています。でも、歌・ダンス・芝居を正式に習っている出演者などは飛騨にはいません。となると大事なことは、キャンプ（指導）で伸びしろがあるかどうかを見極めることが重要となってきます」と解説。

同じく企画部の森清美部長は、今回のオーディションについて「子どもたちは無限の可能性を秘めています。学年が上がることに自信をつけ、ひと皮剥ける子が数名います。今まで目立たなかった子がお姉さんの顔つきになり、余裕すら感じさせるような。そんな子どもたちの隠れた才能や特技を引き出し、磨くための原石となる〝良いとこ探し〟が今回のオーディションの目的です」と話す。

納得のいくパフォーマンスのできた者も、何らかの後悔が残った者も、それぞれの思いを抱えながら会場を後にした。

ついにキャスト発表！ 台本の中に自分の名前が

12月12日、メンバーに新しい台本が渡された。今回の演目は「童話の森の探偵団」。2014年に公演された舞台をベースに、今年用にアレンジが加えられている。ページをめくるとそこにはキャスト名の一覧が。メンバーは食い入るように自分の名前を探す。しかしたとえ希望の役についていたとしても、歓声を上げることはしない。仲間に配慮し淡々と喜びをかみしめるのだ。

今年のメーンキャストは8名。早速、彼女らに六角統括から集合の声がかかる。「今回の中心メンバーとして期待している。さらにパフォーマンスに磨きをかけて、本番に臨んでほしい」。舞台を引っ張る重責にプレッシャーを感じながらも、それぞれの目には喜びとやる気がみなぎっている。

小学校高学年の5名には「次世代のメンバーとして意識を高めてほしい。途中、厳しい判断かもしれないが、役から外れることもある。より力を入れて励むこと」と告げられ、小学校低学年～中学年の9名には「1～2年後にはセリフも持たなければならないので、そのつもりでがんばること。全体的にまだ声が小さい」。目標の定まったメンバーらは、夢に向かって走り出した。ところが…！

オーディションの審査員

審査員に聴く！ オーディションで審査するポイントとは

飛騨・世界生活文化センター
企画部部長
森清美さん

ステージに立ったときの第一印象と全体の雰囲気。人前で堂々と自分を表現することができるか。人の話をしっかり聴くことができるか。※オーディションだけでなくキャンプ（練習）時、休憩時間など普段の様子も見させていただいています。急遽、何かの役割が必要になったときの判断基準とします。

飛騨・世界生活文化センター
飛騨コンソーシアム 統括
名古屋芸術大学特別客員教授
六角裕治さん

歌唱力、ダンス能力に加え、役に入り込める力を持っているかを基礎的な判断材料としていますが、脚本を仕上げた後でのオーディションが多いので、キャストのイメージを頭の中に描きながら参加者をみています。なかでも、キラッとした部分（個性的な部分）を持っていると魅力を感じます。

Dancer/Choreographer
阿南有耶さん

童話会議を演るにあたりキャストオーディションのような形式で行いました。①光るものがあるか。②努力する力がありそうか。③作品内のキャラクターにあっているか。この3点を主にみていました。それに加え、セリフの時は人の話をきちんと聴いているかに着目していました。どんなに技術があったとしても作品の色があります。また自分の技術よりも少しレベルが上の課題がきたとしても頑張れそうな子かどうかはとても大事です。

名古屋芸術大学
江端智哉さん

何より大切なことは、「想い（声）を伝えようとする意志、情熱」を有すること。そのほかには、緊張感（プレッシャー）に負けず「観られることを意識し、観せること」ができること。そして、意外に難しいのだが「ちゃんと立つ」こと。舞台とは、演じる場（あらゆるプライベートを持ち込まない場）であることを理解していること。以上を総合的に審査しています。

2月10日、まん防延期！ どうなる！ミュージカル公演

政府の新型コロナウイルス感染症対策本部は、2月10日、まん延防止等重点措置を3月6日まで延長すると発表した。1月21日のまん防開始から、丸45日間合同練習ができなくなってしまったのだ。ミュージカルの活動は学校の部活動と同じ扱いとなる。本番の舞台は3月20日。ようやくキャストをつかんだ子どもたちの心は行き場を失う。間に合わない…。

舞台公演を前に、六角統括は「公演を中止にするといった考えもありました。ただ、数少ないキャンプでの必死の練習、自宅での孤独な練習と、表裏の努力は無駄にしたくないと考え、本格的なミュージカルの舞台は来年に持ち越しとして、今年はコンサート形式で輝く出演者を観ていただこうと決めました。舞台に立てる出演者の喜びに共鳴していただけると幸いです」と呼びかけている。コロナ禍に翻弄されながらも全身全霊でステージに臨む少女たち。その中には、今年で卒業するメンバーもいる。公演当日はぜひ大きな拍手を送ってほしい。